

くらし・人・環境を見つめて  
**i land fill**

— フェニックス広報誌 —

**CONTENTS**    **INFORMATION**    泉大津フェニックスでコンサート開催  
 神戸沖埋立処分場見学会を実施  
 平成16年度決算概要

シリーズ ゴミのゆくえ4    神戸沖埋立処分場  
 リレーエッセイ    栗山 正隆（亀岡市長）

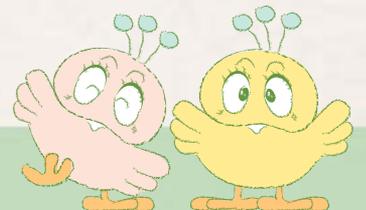
INFORMATION

**泉大津フェニックスでコンサート開催される!**

8月28日(日)、9月3日(土)、10日(土)の3日間、泉大津フェニックスで「RUSH BALL 05」、「OTODAMA」、「YAMAZAKI MASAYOSHI in Augusta Camp 2005」の3回の野外コンサートが開催され、芝生が敷きつめられた会場では、延べ約50,000人の観客が熱い声援を送りました。会場となった「夕凧町」は、センターが平成4年1月から泉大津沖埋立処分場の安定型区画として廃棄物を受け入れておりましたが、平成16年12月に竣工したことにより誕生した新しい町です。

この町を広く紹介し、人が親しみ、集う、にぎわいのある町づくりにつながる各種イベントを開催するため、当センター、大阪府港湾局、泉大津市等が「泉大津フェニックスにぎわいづくり委員会」を設立しました。

この野外コンサートを皮切りとして、今後も随時イベントが開催される予定です。



# 神戸沖埋立処分場 見学会を実施 ～自治体関係者を招いて～



処分場にて、埋立状況を見学



処分場に向かう船内



処分場の概要についての説明

平成17年7月27日から8月10日にかけて、5日間にわたり、神戸沖埋立処分場の実情を知っていただくための見学会を行いました。受入対象区域の近畿2府4県の自治体を対象に実施したところ249名もの参加をいただき、様々なご意見をいただきました。その中から、次の2名の方のご意見を紹介させていただきます。

### ■参加者の声■

初めて見学し、規模の大きさに驚いた。今後、施設を大切に使うためにも、ルールの徹底が必要であると感じた。

また、施設の延命化のためにも、廃棄物の減量化が大きな課題と感じている。

亀岡市環境事業課 松本行雄さん

センター主催の見学会をしていただけるのは、フェニックス参画市町村にとって大変有意義なことです。フェニックス計画の壮さ、重要性を実感できるよい機会となりました。

本市におきましては、市域に最終処分場がなくフェニックスに全面的に頼らざるをえない状況であり、今後とも廃棄物の適正処分にご尽力下さいますようよろしくお願いいたします。

生駒市環境事業課 西田幸彦さん



# 処分場護岸の災害復旧工事が完了しました

前号(Vol.3)でお知らせしましたように、平成16年秋、勢力の強い台風が近畿に上陸し、各地に大きな被害をもたらしました。当センターにおいても神戸沖埋立処分場の護岸が被害を受けましたが、より安全性の高い護岸をめざし災害復旧工事に努めた結果、平成17年9月末日に工事が完成しました。

神戸沖埋立処分場は、尼崎沖及び泉大津沖埋立処分場に続く最終処分場として、平成13年12月に管理型廃棄物の受入を開始しました。尼崎沖と泉大津沖埋立処分場の管理型区画の受入終了(平成14年3月)に伴って、近畿2府4県の全受入区域からの管理型廃棄物は、平成14年4月以降、すべて神戸沖埋立処分場に搬入されており、平成16年度末の埋立進捗率は約25%となっています。



平成16年5月撮影



西護岸復旧状況



南護岸矢板変形部復旧状況



神戸沖埋立処分場のシンボル「フェニックスの木」の緑も元気に

# 平成16年度決算概要

平成16年度の事業損益は、17億2900万円の利益で前年度より5億9700万円増益となっています。これは、神戸沖埋立処分場の災害復旧事業費等により、廃棄物処理費が増加したものの、近隣埋立処分場の閉鎖や公共残土等の臨時的な搬入により、産業廃棄物の処理料が大幅増となったためです。

事業外・特別損益については、前年度比4億3300万円減益の6億5700万円の損失を計上しています。これは、特別損失として泉大津沖埋立処分場揚陸棧橋の除去を計上したことなどによるものです。なお、1期事業建設委託料の負担の調整を行ったことから、

事業外収益および事業外費用がともに増加しました。

以上により、事業損益と事業外損益を合わせた当期利益は、対前年比1億6400万円増の10億7200万円となりました。

今後のセンターの経営状況は、平成20年度末(予定)に大阪沖埋立処分場が受入を開始すると、新たな運営経費が大幅に発生するにもかかわらず、減量・リサイクル化の進展等により、廃棄物処理量の減少が見込まれるため、相当厳しくなるものと予想しております。このため、引き続き経費の一層の削減を図り、センターの安定的な運営に努力してまいります。

### 損益計算書(平成16年度・平成15年度比較)

単位:百万円

	費用の部			収益の部			
	H16年度	H15年度	H16-H15	H16年度	H15年度	H16-H15	
<b>事業損益計算</b>							
事業費用	24,593	25,927	△1,334	事業収益	26,321	27,060	△739
廃棄物処理費	8,517	7,578	939	廃棄物処理料	12,618	10,910	1,708
受託事業費	13,703	16,150	△2,447	受託事業収益	13,703	16,150	△2,447
一般管理費	2,373	2,199	174				
事業利益	1,729	1,132	597				
<b>事業外・特別損益計算</b>							
事業外費用	1,302	602	700	事業外収益	802	408	394
特別損失	157	32	125	特別利益	0	2	△2
事業外・特別利益	△657	△224	△433				
<b>当期利益</b>	<b>1,072</b>	<b>908</b>	<b>164</b>				

※百万円単位での端数処理のため、合計値は必ずしも一致しません。



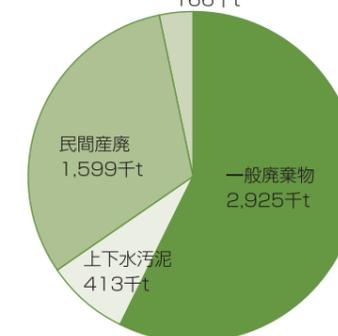
## 神戸沖埋立処分場 神戸市東灘区向洋町地先

### ■神戸沖埋立処分場の沿革

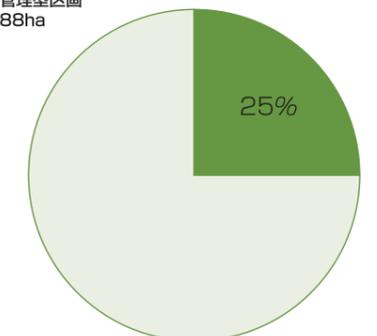
- 平成 9年 3月 フェニックス基本計画の変更
- 9年 12月 公有水面埋立免許
- 10年 2月 護岸工事現地着工
- 12年 3月 護岸工(盛砂)完成
- 13年 3月 護岸工(捨石)完成
- 13年 5月 棧橋工事現地着工
- 13年 12月 護岸締切完了・供用開始

### 廃棄物受入実績 (平成17年3月末現在)

陸上残土  
166千t



### 埋立進捗率 管理型区画 88ha



## リレーエッセイ



### 「フェニックス計画に期待すること」

亀岡市長  
栗山 正隆

昭和30年1月1日、京都府下で7番目の市として誕生した亀岡市は、今年市制50周年の節目の年を迎えました。

本市は、京都府のほぼ中央に位置し、市域は224,90km<sup>2</sup>で京阪神の大都市圏と隣接しています。利便性に優れた住環境を持ちながら、京都府内有数の穀倉地を誇り、保津川の美しい水の流れや、四季を彩る山並みに囲まれた自然豊かなまちです。この豊かな自然を身近に体験できるトロッコ列車や保津川下り、京の奥座敷といわれる湯の花温泉には多くの観光客が訪れています。

昭和30年の市制施行時は38,307人の人口規模でしたが、その後、国道9号、JR山陰本線の沿線を中心に宅地開発が進み、現在(H17.4.1)では95,368人の生涯学習都市として発展してきました。本年には待望のJR山陰本線複線化に伴う亀岡駅舎改築や駅周辺整備が動き始め、「水と緑とにぎわいのまち躍進亀岡」をスローガンに、市民と行政のパートナーシップによるまちづくりにまい進しています。

本市の廃棄物行政は、資源循環型社会構築のため、市民、事業者、行政が共通した認識をもち、互いに連携、協働するなかで、「資源循環型のまちづくり」を基本理念に、地球環境保全の観点から、ごみの発生抑制を中心的課題と位置づけ、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進に努めています。燃やすごみは、「桜塚クリーンセンター」(ごみ処理施設)で焼却、埋立てごみは、「医王谷エコトピア」(最終処分場)で埋立処分しています。

ごみ焼却施設から発生した焼却灰は、過去本市の最終処分場で埋立処分していましたが、処分場の延命化を図るため、また「廃棄物の適正処理と都市の活性化」という大阪湾フェニックス計画の趣旨に賛同し、平成4年度からこの計画に参画しています。平成16年度には、ごみ焼却灰約3,100tの処分を委託しましたが、この量は本市の埋立てごみとほぼ同じ量となっています。

皆さまもご存知のように、昨年は8月末の台風16号により神戸沖埋立処分場が大きな打撃を受け、9月6日には尼崎基地の受け入れが完全に停止しました。その影響で本市では約1週間焼却灰

が計画どおり搬出できなくなり、桜塚クリーンセンターの灰ピットが満杯状態となりました。焼却灰については医王谷エコトピアの地元住民との申し合わせにより埋立処分を行わないこととなり、急きょ、焼却灰の運搬委託会社に協力を要請、10tコンテナ2台を借り上げ、灰を積載してクリーンセンター内で一時保管を行いました。さらに、ごみ焼却炉の運転計画を変更し焼却灰の発生を抑えました。これ以上受け入れ再開が遅れた場合には、焼却計画の大幅な変更や保管方法の再検討等が必要となり、本市のごみ処理にとっては多大な影響を受けるところでありました。

本市をはじめとして多くの自治体が将来的に最終処分場を適正に確保することが困難な状況であり、大阪湾フェニックス計画に基づく廃棄物の最終処分を行っています。本市も3Rによる廃棄物の減量化に努めるとともに、今後とも長期間にわたり大阪湾フェニックス計画を見すえた焼却灰等の最終処分体制を継続したいと考えています。

大阪湾フェニックスセンターには、地球環境と共生した施設であるとともに、長期安定的に、また広域的に廃棄物の適正処理と埋立地を活用した地域の均衡ある発展に貢献されることを期待しております。



桜塚クリーンセンター

## 編集後記

今回は、泉大津沖での野外コンサートをトップで紹介しました。若者を中心に多くの人が集まり、大盛況のうちに終わりました。日頃は、処分場を訪れることもほとんどないと思いますが、このような機会に、一人でも多くの人にフェニックスの存在を知ってもらい、あらためて、ごみの減量化、環境保護について考えていただけたらありがたいと思います。

竣工した埋立地の地名は「夕風町」。海岸の穏やかな夕暮れを連想させます。人々が集い、憩い、楽しめる場所となればいいですね。

また、見学会の実施で最終処分場の実情を知ってもらい、意見等をいただいたことで、各自治体や当センターのごみの適正処理に対する認識がさらに深まったように思います。

ご意見やご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せ下さい。

(編集スタッフ一同)

## i land fill Vol. 4

発行:  大阪湾広域臨海環境整備センター  
(大阪湾フェニックスセンター)  
<http://www.osakawan-center.or.jp/>

〒530 0005  
大阪市北区中島2-2-2 ニチメンビルディング9階

TEL 06 6204 1721(代)  
FAX 06 6204 1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp

i Land fill は当センターホームページにも掲載しております。



古紙/パルプ配合率100%再生紙を使用



この印刷物は大豆インクを使用しています。

2005.10